

校長の想い5月

地震・雷・火事・親父

風薫る5月になりました。新しい年度が始まり、そろそろ教育現場も軌道に乗ってきた頃ではないでしょうか。

さて、表題の「地震・雷・火事・親父」ですが江戸時代の末期ごろから、世間でたいへん恐ろしいとされているものを並べた言葉とされています。

「地震・雷・火事」に関しては、ひとつ間違えると命に係わることなので確かに恐ろしいものでありますが、「親父」はどうでしょうか？

私は26歳で初めて専任の教員になりました。最初の頃は、生徒とも年が近くともに日が暮れるまで部活動をやっていました。それから年を重ねて、いつの間にか保護者と同じ年代となり今では保護者の方の中に教え子がいるようになりました。

教職員の中にも、私が教員として勤めている時にその学校の生徒であったという方もいるようになりました。この神津高校の教職員の中にも教え子がおります。

「歳をとったなあ。」とつくづく感じます。教職員にとっても、校長先生というよりは、「親父」なんだなと思っていた時に、今年の3月、この4月で異動する職員の送別会がありまして、「うちの校長先生は、厳しい先生である。」と数名の若手から言われました。

その時脳裏に浮かんだのが表題でした。

今年度は、兄、姉、弟、妹みたいな教職員もいますが、若手には今年も島の「親父」でいこう！

高等学校もそのように軌道にのってきた5月です。